

第31回 中国地域ニュービジネス大賞  
プレスリリース資料 別紙

2023/4/21 中国 NBC 阪井

問い合わせ：090-2801-8178

【受賞事業紹介】

■大賞

株式会社 Rodina (広島市)

<https://rodina.co.jp/>



(株) Rodina 山田社長

○表彰事業

メンタル不調者の復職・就職専門機関リワークセンター

○事業内容

2017年に広島市にてRodinaを設立し、メンタル不調などを原因として休職・離職している人々への復職・再就職を支援する『リワークセンター』を大手町に開設。リワークとはReturn to work(Re-Work)の略語で、これまでに全国20拠点を展開し、2021年度は268名の復職・再就職者を輩出している。

うつ病で休職した人の約半数は5年以内に再発、再休職となる可能性があると言われており、本人・企業の両方が安心して職場復帰を行える仕組みや環境作りが必要だが、これを支援できる社会資源が圧倒的に不足している。

Rodinaは休職～復職までの全領域をカバーしながら全国展開しており独自のマーケット(ビジネス)ポジションを確立している。これは、障害者職業センターや、医療法人などが行う医療リワーク機関などの従来からあるリワーク機関とは一線を画す福祉サービス事業である。

各拠点には、精神保健士、公認心理士、看護師などの国家資格の所持者が多数在籍しており、休職した人達にリワークセンターに通って頂き段階的に週5日でフルタイム働ける状態を整えるプログラムなどを実施している。また、全国での支援事例やノウハウを蓄積・分析して質の高い支援サービスを展開することにより、復職・再就職した人達の高い職場定着率につながっている。

チェコ語の「家族」を意味するRodina(ロディーナ)は『望まない障害者をつくらない』を企業理念としている。少子化が進む日本において、企業の健康経営や社会保障費の抑制につながる社会的に大きな意義を持つ事業である。

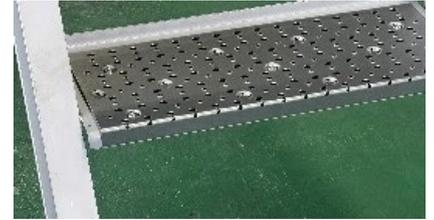
## ■優秀賞（五十音順に掲載）

### ①株式会社 伊藤（山口県光市）

<https://itoh-anzen.com/>

#### ○表彰事業

『究極の滑り止め板 くつ底キャッチャー』



くつ底キャッチャー

#### ○事業内容

1989年に山口県光市にてステンレス鋼材の販売会社として設立。翌年には加工部門へ進出し、ステンレスやアルミの架台製作、配電盤用の銅バーの金属加工業務を展開している。2011年にオリジナル製品のステンレス製滑り止めの開発・製造、販売を始めた。金属加工のノウハウと経験を活かして滑り止め製品の改良を続け、水、油、粉などが飛散する環境でも滑らない「くつ底キャッチャー」を製品化し、2017年には商標登録を取得した。さらに営業活動の工夫により販売実績が毎年1.5~2倍へと急増している。

この製品の特徴の一つは滑り止め性能の長期維持にある。雨などで水に濡れる階段の滑り対策では、紙やすり状テープやゴムが多く用いられている。これらは3~4カ月で摩耗するため、機能の確認と交換が必要となる。これに対してステンレス製の「くつ底キャッチャー」は5年経過しても摩耗が少なく、長期間取り替えが不要となり、交換を含めたコストを抑制できる。

営業では「業界・場所・滑り要因」毎にニーズや製品の効果を研究して、顧客ニーズをかなえた上でその成功事例を企業内や業界内への水平展開を促した。その結果、鉄鋼、機械、食品、化学、運輸など幅広い業界の企業に工場や屋外設備の「滑り対策」として導入され全国700社で採用中である。

滑り止め板を開発したきっかけは、地元取引先からの「はしごが滑って作業員が危ない」との相談であった。海上自衛隊の潜水艦や救急車、高所作業車などへも導入実績があり、新しい安全文化を創造する事業である。

### ②奥大山の水洗い珈琲合同会社株式会社 （鳥取県江府町）

<https://washed-coffee.jp>

#### ○表彰事業

『奥大山の水資源を活用した新コンセプトの珈琲豆創出』



奥大山の水洗い珈琲豆

#### ○事業内容

2020年に大阪から鳥取に移住し起業。鳥取県江府町のローカル資源である「奥大山の水」と「奥大山」というブランドを活用し奥大山の水で珈琲生豆を洗ってから焙煎した「奥大山の水洗い珈琲豆」を発売開始した。

珈琲焙煎は、珈琲生豆をそのまま焙煎するのが日本を含め、世界中一般的な方法。しかし珈琲生豆には土埃や汚れが付着しており、それが雑味の原因の一つになっている。これを奥大山の清潔な水で洗い流してから焙煎する事で、雑味がなくスッキリした味に変化し、珈琲豆そのものの味を味わえるようになる。「奥大山の水洗い」「高品質珈琲生豆」を背景に高級層をターゲットとしたブランディングを形成、「高くても買う」ポジションを得ることでリピーターを掴むことに成功している。

地域にある水資源の有効活用事例の多くはミネラルウォーターなどの飲料であるが、この珈琲豆は商品に「奥大山の水」の利用を打ち出しており、水資源ビジネスの新しい商品化コンセプトを生み出した事業である。

この事業を実現するために協力して頂いた江府町・江府町商工会・鳥取県商工会連合会との連携を継続しており、『水の町 江府町』として新たなご当地ロゴシールを提案し他カテゴリー商品も含めた「奥大山の水を使用しています」という地域ブランド戦略を展開する準備を進めている。起業当時から地元の方々から協力を得ており、廃校になった小学校理科室を焙煎場として活用するなど、地域活性化を地域一体で取り組んだ事業である。

### ③大和クレス株式会社 (岡山市)

<https://www.daiwa-cres.co.jp/>

#### ○表彰事業

『バクテリアがひび割れを直す自己治癒コンクリートの製造』



自己治癒コンクリート

#### ○事業内容

1964年に創業。土木工事向けプレキャストコンクリート製品の設計・製造・販売を行っており、西日本に5つの直営工場、11の営業所を持ち、道路、橋、山や川の擁壁などの製品を提供。製品の一つとして、自己治癒コンクリートの製造を行い、中国四国地方に展開中である。

自己治癒コンクリートはバクテリアの代謝機能を活用した技術であり、オランダ・デルフト工科大が技術開発。この技術を北海道の曾澤高圧コンクリート(株)がコンクリート材としての量産技術を確立。大和クレスは、このコンクリート材を調達して自社製品化を実現。2022年に自己治癒コンクリート「Basilisk」の特許を取得し製造・販売を開始した。

「Basilisk」は無機物であるコンクリートに有機物であるバクテリアとその餌となるポリ乳酸を配合したコンクリート製品である。このバクテリアは通常、コンクリート製品の中で眠っているが、ひび割れが発生した際に侵入する水や酸素で活動を開始。バクテリアが排出した炭酸カルシウムがひび割れを埋め水漏れが止まり、自己治癒が完了する。

この「生きているコンクリート」は、製品の長寿命化による人々の生活を守る山や川の擁壁などのインフラコストの低減や、コンクリート製造時に発生するCO2削減につながる。また、地元工業高校で開催したSDGs出前授業では、学生が土木建築やカーボンニュートラルへの興味を大きく持つなどの反響があり、社会貢献の価値を生み出す事業である。

### ④株式会社 LIMNO (鳥取市)

<https://www.limno.co.jp/>

#### ○表彰事業

『V.co-Lab を活用した社会イノベーション事業』



V.co-Lab ルーム

#### ○事業内容

1966年設立の鳥取三洋電機のDNAを継承し、子会社を母体に2013年三洋テクノソリューションズ鳥取としてスタート。2023年に(株)LIMNO(リムノ)へ社名変更。通信教育用タブレット端末などを開発・生産する電子機器メーカーとして「ものづくり」に強みを持つ。

2022年より自社のものづくりの技術を活用できるビジョナリーコラボレーションセンター(V.co-Lab)を開設した。ここはオープンイノベーションの価値共創拠点として機能し、個人・団体・法人と共同で社会課題を解決する製品・サービスを量産・販売へつなげる場となっている。

「コワーキングスペース」などの異業種が集う共創拠点は多数あるが、V.co-Labは各種評価・検証設備等を備えており、電子機器を中心とした実際の商品を作り出せる強みを持ち、製品化までが困難なものづくり系のベンチャー支援が可能となっている。新たなビジネスアイデアによる新商品や新サービスについて、設備や技術を貸し出して製品の量産までサポートするという従来の共創活動では見られない事業である。

当事業ではLIMNOと協業先の双方にメリットある場合、利用料を実質無料としており、ベンチャーの事業創出へ強力に後押ししている。また、地域と連携した「シニア向けスマホ教室」や「医療ケア児家族交流会」などを通じて多様な利用者の声を集める活動も行っており、様々な社会課題解決の商品開発を通じて次世代を創造する事業である。

## ■特別賞（五十音順に掲載）

### ①セイシヨク株式会社（岡山市）※

<https://nunous.jp/>

※セイシヨク（株）の本社は倉敷市  
受賞事業は岡山市 岡山工場



NUNOUS [ニューノス]

#### ○表彰事業

『NUNOUS [ニューノス] 未活用の繊維素材を価値化する取り組み』

#### ○事業内容

1880年に倉敷にて織物製造業として創立し、現在は岡山工場にてユニフォーム生地、人工皮革の染色を行っている。2018年よりNUNOUS事業を開始。

この事業は、様々な業種で発生する「無価値とされている繊維廃材」を「未活用の繊維資源」として回収して価値化する取り組みである。繊維製品のリサイクルが進まない原因の一つが繊維の分別が困難な点であり、この課題を解決するために、多様な繊維が混ざった繊維素材も原料にできるアップサイクル手法（新・積層法）を開発し、2021年にNUNOUSの製法で特許を取得。

新・積層法は、粉碎以外の再生手法には不向きな、様々な繊維の混ざった各種混合繊維も利用可能となった。原料として未活用の繊維のほかにサトウキビの非可食成分由来のバイオポリマーを使用しており、元来活用されていないもので製品化できている。これにより、ファッションにとどまらず、建築や文具など多彩な分野で繊維廃材の新しい用途を創造している。

素材の色や柄を残して積層して切り出した表面には、装飾材として使用可能な意匠性だけでなく、由来を顕す物語性も備わっており、「自身に由来のある再生素材を創って自ら使う」という新しい価値を提供している。

少量での別注生産（10kg程度）に対応できるので別注へのハードルも低く、ユーザーが積極的に繊維廃材を活用する動機となっている。岡山は繊維産業が多数あり、企業などから未活用の繊維素材を受け入れて、オリジナルのNUNOUSに戻す活動も行っており、繊維廃材の未来を創造する事業である。

### ②セディカル株式会社（山口県周南市）

<https://www.sedical.co.jp>



セディカル（株）宮田社長

#### ○表彰事業

『予防医学に基づいたビヨンドスイーツの開発』

#### ○事業内容

2021年に創業。シュガーフリー、グルテンフリー、カゼインフリー、オールナチュラル、ハラールなどに対応する健康スイーツの企画、開発を主な事業としている。

既存の健康食品は、「甘さや美味しさ」と「効果・効能」がトレードオフになることが多い。この商品は、医師との共同開発により、がん患者や糖尿病患者でも食べられる、むしろ食べたほうが良いチョコレートを、高品質カカオの芳醇な香りや甘さを残したうえで実現した革新的な商品である。糖質0チョコレートは市場にあるが、ほとんどが人工甘味料や添加物で甘さを出している。当社は全て天然由来の食材のみを使用しており、甘味料は一般の砂糖に比べ血糖値が上昇しにくく砂糖の300倍も甘い100%羅漢果顆粒を使用している。

加えて個々の必要性に応じた特許成分を配合していることで、他社の健康チョコレートと差別化を図っている。

本製品は、病気を発症した方だけでなく、病気にならないための予防医療でも活躍する製品である。そのため、健康意識が高く、予防医学を中心としているアメリカの市場には浸透しやすく、また、ヘルスケア市場サイズからみても、アメリカは目指すべき優先度の高い地域であると判断して海外展開を中心に活動を開始しており、新たな市場での活躍が期待される事業である。

### ③株式会社タシマボーリング（鳥取市）

<https://tashima-boring.com/>



#### ○表彰事業

『井戸掘り技術を活かしたマサバの陸上養殖事業』

#### ○事業内容

1991年に創業。井戸掘りを主体としたボーリング工事が主な事業である。2021年から長年培った地下水開発の技術を活かしたマサバの陸上養殖事業を開始。鳥取市岩美町大谷に地下海水井戸陸上養殖センターを開設。

陸上養殖は海面養殖と異なり陸上に設置した水槽に人工海水や海より直接汲み上げた海水を用いることが一般的である。これに対して、当事業は陸上で井戸を掘り、そこから得た地下海水を利用することが特徴である。

養殖に適した水質の良い地下海水を確保することが必要であり、本業の強みであるさく井技術を活かしている。また日々の施設メンテナンスでは、取水設備の高度な管理にさく井事業のノウハウが使われている。この事業を通じて、新たにオリジナル地下海水調査工法「ターゲットポイント工法」を開発し、養殖と井戸掘り技術を融合した新しい事業を構築した。

陸上養殖とすることで、ジェンダーレス水産業として誰もが活躍できる職場を目指している。開設した養殖センターでは、飼育員を女性が担当しており、重労働のイメージがある水産業でも女性が働ける環境として水産業へのイメージ向上を図っている。

現在は、JR西日本のブランドである「お嬢サバ」に加え、地域の特色を活かしたオリジナルブランド「さばみちゃん」の飼育販売をスタート。ブランド価値向上に向け餌の改良や水槽の工夫を進めることでサバの身の脂乗りや美味しさの追及を行うなど、多様な新規性に富む事業である。

陸上養殖施設

### ④株式会社バイタルリード（出雲市）

<https://www.vitallead.co.jp>



#### ○表彰事業

『過疎地域における定額乗合タクシー「TAKUZO」』

#### ○事業内容

1998年に創業。交通というキーワードで、地域の公共交通計画や道路整備計画等のコンサルタント業務、GISを活用したソフト開発やスマホアプリ開発、あいのりタクシー等の新しい旅行サービスの展開に取り組む中。

2019年にTAKUZO事業として定額乗合タクシーの運行支援ビジネスを立ち上げた。これは、過疎地域の公共交通における利用者・運行事業者・行政の課題の同時解決を目指した過疎型AIオンデマンド配車システムである。地方のタクシー事業に「定額乗合タクシー」の仕組みを提供することを通じて、①「交通弱者の移動環境改善」②「タクシー事業者の収益性改善」③「自治体の交通に係るコスト削減」という3者の課題を解決することを目的としている。クルマを自由に使えない高齢者等が、従来利用してきた公共交通の運賃よりも少し多くの定額料金を支払うことで、過疎地域に適した、乗り放題の「ソコソコ便利な移動環境」の提供が可能となる。

この定額乗合タクシー向けに、独自アルゴリズムをもったAIオンデマンド配車システムを構築した。これは需給共に少ない地方の定額乗合タクシーに最適な配車アルゴリズムとしており、少ない車両での輸送人数を最大化し、運行コストを最小化する運行が可能となっている。

これにより、過疎地域での地方自治体が赤字不採算によりサービス低下を余儀なくされている公共交通機関の代替となり、高齢者向けの交通手段の維持などの課題解決につながる事業である。

TAKUZOの説明

## ⑤株式会社ビーライズ (広島市)

<https://berise.co.jp/>

### ○表彰事業

『医療教育用 VR シミュレータープラットフォーム』



VR シミュレーター操作

### ○事業内容

2012年に創業。XR領域でサービス提供を行うテクノロジーカンパニーであり、リアルな3D・CGとアプリケーション・web開発、アイデアを組み合わせた最先端ソリューションを開発している。2019年からXR総合開発(教育、医療)を開始し、2021年よりメタバース事業を開始した。

本事業では、病院や大学医学部と連携し、「医療用3Dモデル・シミュレーション技術、開発特許、大学との連絡」等によるノウハウを基に、VR空間で医療従事者の臨床力を向上できる「医療教育用VRシミュレーター」の開発に特化したプラットフォームを構築したものである。

このVRシミュレーターは、高精細な3D・CG空間内に診察室や手術室・患者を再現しており、診察や治療手技をシミュレーションできるVRソフトウェアとなっている。臨床経験の浅い学生が治療手技を身に付けるためには経験できる回数が必要であるが、医療現場や時間の制約などから個々の学生に与えられる時間や回数は十分とは言い難い。この製品は感溢れるインタラクティブなトレーニングができたため、座学だけでは学べない体験知を短期間で繰り返し学習することが可能となっている。

今後、新たに開発される医療技術や高度な医療装置を使った医療行為に備え、それを学習する時間や手段が求められている。VRシミュレーターを大学医学部や研修医を受け入れている臨床研修病院に展開することで、高度な医療技術を備えた人材育成につながる事業である。

## ⑥藤森産業機械株式会社 (米子市)

<http://fsk-japan.com>

### ○表彰事業

『排水負荷を大幅に低減！次世代生ごみ処理装置の開発』



生ゴミ処理装置

### ○事業内容

1982年に創業。食品製造に携わる省エネや環境保全に関するシステムや機器類を主に製造。生ごみ処理機、オゾン発生器、排水処理装置等、食品製造業における環境保全システムの構築やサポートを行っており、2019年に排水負荷を大幅に低減できる生ごみ処理装置を開発した。

食品生ごみの処分方法として、食品リサイクル法やCO2削減、SDGsなどの観点から、環境負荷の軽減に向けた様々な仕様が検討されており、微生物で分解して液化する消滅型がその一つである。焼却処分と違い、膨大なエネルギーやCO2を出さないが、従来の方法では微生物分解されていない生ごみが排水に直接流される恐れや、排水基準を超える可能性もあった。

当装置は、排水を固液分離する機構を設け、大幅に排水の負荷を軽減できている。さらに、機械内部に水が溜まりやすい構造上の欠陥を解消する機構を開発したことで、米食の多い学校給食の事業所でも詰まりの少ない生ごみ処理機として高い評価を得ている。生ごみを分解して生成した分解液は排水するだけでなく液肥として利用するリサイクルにも10年以上取り組み、栽培実績を増やしている。

生ごみ処理では臭いなどが気になるが、実際に稼働しているところでは、「生ごみがどこにあるのか分からない」とのお声をいただいております。悪臭が伴わず排水管の詰まりも少ないなど周辺環境に対して優しいなど、全国の生ごみ処理環境が大きく変わる事業である。